

# 「新潟大学キャンパス市」を開催しました



新潟大学農学部では、附属フィールド科学教育研究センターで生産された農産物等を学内販売する毎年恒例の「新潟大学キャンパス市」を、6月10日（水）に五十嵐キャンパスで、同12日（金）に旭町キャンパスで開催した。

この「キャンパス市」は、農学部の学生と同附属センターの技術職員が農場実習等で付けした農産物や、実習で種から丹精こめて育てた花卉苗、野菜苗、ハーブ苗類等、十数種類を学生、教職員に販売するもので、市価の半分程度で販売を行った。

五十嵐地区での販売は、特にペチュニアが販売開始から約10分、玉ねぎも約30分で完売、花卉苗は去年の1.7倍の売れ行きだった。

旭町地区でも玉ねぎ、ハーブ類などが完売、花卉苗は去年の1.3倍の売れ行きだった。病院地区でもあり、患者様、お見舞いに来院された方々や医師、看護師、技師等の病院の職員や学生など、大勢の方々が訪れ、1人で10ポット以上の花卉苗を購入する方も多数であった。

また、両キャンパスとも、準備中から販売を待ち望む方々が多数見受けられ、キャンパス市への関心の高さをうかがわせるとともに、購入の際、販売の学生に、苗の管理、施肥、病虫害の予防や食べ方などを熱心に質問している姿も見られた。

五十嵐及び旭町地区のいずれも天候にも恵まれ、昼休みの時間帯を中心に販売したこともあり、大好評のうちに2日間のキャンパス市を終了した。



五十嵐地区キャンパス市の様子



旭町地区キャンパス市の様子